

第 95 回 報 告 書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

目 次

株主の皆様へ.....	1
Global Vision.....	3
事業報告.....	5
連結計算書類.....	27
計算書類.....	30
監査報告.....	33

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第95期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の事業内容をご報告するにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

この度は、資源市況の急激な悪化を背景に、減損処理を行う結果となりましたことを大変重く受け止めております。今回の処理により当面の懸念材料は一掃したと考えており、今後は、次項にてご説明する「Global Vision」-for the Next 10 years established in 2016-の実現に邁進していく所存です。

この1年間の世界経済を概観しますと、中国経済の減速、原油価格の急落、米国利上げによる影響で、新興国経済が低迷し、全体として緩やかな成長にとどまりました。欧州経済は、難民問題やテロによる治安の悪化が政治・社会の不安定要因となりました。中国では、「新常态」への移行のための過剰投資抑制で成長が減速し、その結果、新興国経済は中国向け輸出の減少と一次産品価格の下落による減速に歯止めがかかりませんでした。

こうした中、わが国経済は、個人消費の伸び悩みと輸出の回復遅れで踊り場状態が続いています。

このような経営環境のもと、豊田通商グループの売上高は8兆1,702億円、営業利益は1,402億円となりました。一方で、一過性の減損損失等の発生から親会社株主に帰属する当期純損失は437億円となりました。

配当に関しましては、当期においては当期純損失となるものの、期末配当金は1株につき31円とすることを第95回定時株主総会にてご承認いただきました。

なお、当事業年度の1株当たりの配当金は、中間配当金31円と合わせ、年間では62円となり、前事業年度の配当金に比べ6円の増配となります。

当社は株式会社トーメンとの合併後10年という節目の年を迎え、経営環境の大きな変化に対応し、真のグローバル企業として一層の進化を遂げるため、この5月に「Global Vision」-for the Next 10 years established in 2016-を策定いたしました。当社ならではの「Toyotsu Core Values」を活用・発揮し、企業価値を高めてまいります。

「Toyotsu Core Values」を生かした、豊田通商らしい新たな取り組みを以下ご紹介いたします。

当社の重点地域であるアフリカ地域では、アフリカ最大級の物流網を持つ仏ボロレ社（Bolloré S.A.）と包括的協業意向書を締結しました。アフリカ及びその他地域において、多岐にわたる事業分野での協業を目指してまいります。

また、当社関係会社のCFAO社（CFAO S.A.）は、2015年12月にコートジボワールのアビジャンにショッピングセンター「PlaYce Marcory」をリテール事業第一号店としてオープンいたしました。この出店を皮切りに、今後アフリカ8か国への展開を計画しています。

一方、当社の強みである自動車分野では、東レ

株式会社と共同で炭素繊維リサイクルの取り組みを開始します。それぞれの知見・ノウハウを生かして炭素繊維のライフサイクルを通した循環型社会の実現に貢献してまいります。

今後の投資につきましては、「Global Vision」の3領域を中心に収益基盤の強化を進めてまいります。なお、財務体質改善のため、営業キャッシュフローの範囲内で当社の強みが発揮できる案件を厳選し、進捗を厳格に管理することで、投資効率の向上を図ってまいります。

当社はグローバルダイバーシティ（多様性）＆インクルージョン（受容）を推進しており、各種研修の実施、海外を含む豊田通商グループ全体での人材登用に向けてグローバルな人事制度の検討を進めています。また本年4月施行の「女性活躍推進法」行動計画では、女性を含む全社員が生き活きと働き能力を発揮し続ける風土・制度づくりを掲げて取り組んでまいります。

当社グループをご理解いただき、ご支援くださっている株主の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成28年6月

取締役社長
加留部 淳

